Enfance finie

3年学年主任　高石　久美

ご卒業おめでとうございます。

入学式で会ってから早いもので3年経ちました。入学してから2年生の2月までは順調に学校生活を送ることができました。修学旅行で北海道・関東・台湾に行くことができ、関東班は東京オリンピックの会場となる場所をクルーズ船から見ました。台湾班は飛行機を乗り継ぎ、現地の人と交流をしました。北海道班はファームステイという得難い経験しました。すべて新型コロナ感染症が出現する前の話でした。コロナ後の世界を思うと隔絶の感がします。

2020年はオリンピックイヤーのはずでした。ところがその新型コロナ感染症で予定されていたことが延期や中止になりました。その中にはあなた方の部活動の集大成であった大会も含まれました。何のために部活動で頑張ってきたのか目標を見いだせなくなった人も多かったと思います。それでも、何とか気持ちを切り替えて前に進んできました。そして、休校期間もありました。受験生としては1日でも惜しいのに、休まざるを得ませんでした。いろいろなツールを使って課題を出し、授業動画を見て勉強してもらいましたが、対面で授業ができないもどかしさを味わいました。未知の病の不安、学業の遅れの不安をずっと抱えて私たちは2020年を過ごしました。そして大学入試が無事に行われるのか、今も大きな心配事としてあります。

大人もこの不測の事態に最適解を出せずにいて、暗中模索の中、できることの中から最善の策を選択してきました。それが正解だったかどうかはわかりません。分散登校が始まり生徒が学校に戻り、笑い声が校舎に満ちた時、学校には生徒がいないといけないのだなと確信しました。あなたも友達と一緒に過ごすことができる楽しさ、部活動ができる嬉しさ、日常を取り戻す有難さを知ったと思います。

時折口をついて出る詩のフレーズがあります。詩人三好達治の詩集『測量船』に収められている「Enfance finie」の一節です。

海の遠くに島が……、雨に椿の花が堕ちた。鳥籠に春が、春が鳥のゐない鳥籠に。
約束はみんな破れたね。
海には雲が、ね、雲には地球が、映ってゐるね。
空には階段があるね。

「約束はみんな破れたね」というこの言葉が2020年を象徴しているような気がしてなりません。「Enfance finie」はフランス語で「子供時代の終わり」という意味です。あると思っていたものがない。当然与えられると思っていたものがない。特に子供には優先的に与えられることが、大人になると与えられなくなることがあります。お菓子、お年玉、褒め言葉などなど。淋しいですが、それが大人になるということ。この詩には続きがあります。

今日記憶の旗が落ちて、大きな川のやうに、私は人と訣(わか)れよう。床に私の足跡が、足跡に微(かす)かな塵が……、ああ哀れな私よ。
僕は、さあ僕よ、僕は遠い旅に出ようね。

あなたもまた今、子供時代の終着点に立っています。高校生活の終わりに、3年間関わってきた皆さんにこの詩を紹介したいと思いました。この詩は別れの詩ですが、不思議と悲壮な感じはしません。「約束は破れ」て「哀れな私」かもしれませんが、「海には雲が、ね、雲には地球が、映ってゐるね」という発想の転換に爽快感すら覚えます。特にこの言葉が好きで、ちょっとしんどいなと思う時によく思い出します。この言葉を口にすると不思議と軽い気分になるのです。地上で重力の影響を受けていても、気分は鳥のように俯瞰して見ることができるように。言葉には力があります。首の角度をほんの少し変えただけで視界が変わるように、言葉によって晴れ晴れとすることがあります。私にとってのこの詩はそういう清涼剤の役割があります。

この詩のように子供時代が終わって大人の世界に足を踏み入れる皆さん、次に進む世界はあなたの気概と熱情でどうとでもなる世界です。今までと異なり、細かなことで注意されることも少なくなり、伸び伸びとするでしょう。干渉されない代わりに、責任も伴いますが、そこは自由裁量でやれる部分なので楽しい部分でもあります。日本の常識は世界の非常識とも言われます。どうぞ極東の島国に収まらず、世界を股に、いえいえ、宇宙を股にご活躍ください。

母校は母港。ここから大きく船出しても、何かあれば母港に戻ればよろしい。そのための母港。

では最後もフランス語で締めるとしましょう。

Bon Voyage!（良い旅を！）あなたの未来に幸多からんことを。